

望岳山荘

いって

この夏休みの前半は、九州各地へ講演に出かける機会が多かった。鹿児島県の土屋知事らも出席して下さった県の研修会は、霧島温泉が会場だったので、ちょうど霧島高原国際音楽祭にぶつかり、信州の涼気とは一味違った高千穂山麓で楽しい一夜を過ごすことができた。

長崎、宮崎と巡って唐津(佐賀県)では、何回か投宿したことのあるシーサイド・ホテル

ルに泊まったが、たまにたま部のテレビを付けてると、福岡市長、唐津市長、前原町長がゲストで西日本新聞社協力の「玄海ウエストコースト・サミット」と銘打った市民参加のセミナーをやっていた。私は現在、福岡市が誘致しようとしている国連大学アジア・太平洋研修センターの日・韓・タイ・オーストリア国際検討委員会議長を仰せつかっている、この秋に中間報告をまとめることになっているので、桑原・福岡市長

の発言に関心があったが、唐津の市長や住民がどんな発言をするのかにも興味があった。というのは、私の知るかぎり、福岡から唐津にいたる玄海灘に面した海岸と唐津市の有

歴史や曳山「くんち」、唐津焼など郷土のすぐれた芸能・工芸と結んで美しい松原や浜辺を守ること、地域の将来を展望した発言には共感するところが多かった。

唐津で聞いた女鳥羽川

翌日は市の研修会での講演したが、野副・唐津市長は、日頃から私の著書も何冊か読んで下さっているこのことで恐縮し、また市長としての識見に改めて感銘を受けた。しかも、私の郷里が松本だということも知っておられて、「あの女鳥羽川は素晴らしい川ですね。名前もいいし、市の中心部の清流に大きな鯉が沢山泳いでいる」と昨年松本を訪れたときの印象を語られた。だが、言葉の最後に、いかにも私にたいしてすまないといった顔付で野副市長は、「ところでここにビニールの袋やプラスチックの破片がひっかかっていますけれど」と言われた。遠く九州の唐津で聞いた女鳥羽川論である。(中嶋 嶺雄・東京外語大教授)